

内部障害リハビリテーション学特論

《担当者名》澤田篤史 (as-51@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

生命の恒常性を維持するため、また安定して活動的な生活を保障する全身体系のひとつである呼吸・循環器・代謝系の形態学および機能学的側面からリハビリテーションを考える。呼吸器障害、循環器障害および代謝障害とは症候学的かつ障害学的に相互に関連しながら評価および治療を進めていかなければならない。受講者が抱えている内部障害に関連する臨床的課題を軸に、討議を通して理解を深めていく。

【学修目標】

一般目標：

1. 内部障害の症候学的かつ障害学的解釈の基本を身につける
2. 内部障害合併例の臨床的課題をEBMに基づいて解決する能力を身につける

行動目標：

1. 呼吸不全を含む呼吸機能障害の症候学と障害学について説明することができる
2. 呼吸機能障害のリハビリテーションの最新のEBMについて検索し説明することができる
3. 心不全を含む循環機能障害の症候学と障害学について説明することができる
4. 循環機能障害のリハビリテーションの最新のEBMについて検索し説明することができる
5. がんや低栄養を含む代謝機能障害の症候学と障害学について説明することができる
6. 代謝機能障害のリハビリテーションの最新のEBMについて検索し説明することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内部障害とリハビリテーション	内部障害とリハビリテーションの構造的な整理を行う。疾病由来と障害由来について整理を行い、症候学的解釈と障害学的解釈を試みる。	澤田篤史
2	呼吸不全の病態生理学	呼吸不全のメカニズムについて生理学的側面と運動学的側面から整理する	澤田篤史
3 }	呼吸機能障害と呼吸リハビリテーションの今日的課題	呼吸リハビリテーションの到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	澤田篤史
4			
5	循環器疾患の病態生理学	心不全のメカニズムについて生理学的側面と運動学的側面から整理する。	澤田篤史
5 }	循環機能障害と循環器リハビリテーションの今日的課題	心臓リハビリテーションの到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	澤田篤史
6			
7	糖尿病の病態生理学	糖尿病のメカニズムについて生理学的側面と運動機能側面から整理する。	澤田篤史
8 }	糖尿病に対するリハビリテーションの今日的課題	糖尿病に対するリハビリテーションの到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	澤田篤史
9			
10	栄養不良の病態生理学	栄養不良のメカニズムについて生理学的側面と運動機能側面から整理する。	澤田篤史
11 }	栄養不良とリハビリテーション栄養の今日的課題	リハビリテーション栄養の到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	澤田篤史
12			
13	がんの病態生理学	代謝性疾患としてのがんのメカニズムについて生理学的側面と運動機能側面から整理する。	澤田篤史
14 }	がんリハビリテーションの今日的課題	がんリハビリテーションの到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	澤田篤史
15			

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席を前提として、

- 1)和文および英文の文献抄読（50%）
- 2)臨床的課題に関する討議（50%）

により評価を行う。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

- 1)Wasserman,K.（谷口興一監訳）；運動負荷テストの原理とその評価法 南江堂
- 2)Scot Irwin；Cardiopulmonary Physical Therapy Mosby
- 3)ACRPR（日本呼吸管理学会監訳）；呼吸リハビリテーション・プログラムのガイドライン LIFE SCIENCE PUBLISHING

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習する(予習・復習の合計で160分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士としての病院や研究施設における実務経験をもとに講義を行う。